

土木学会100周年記念事業

「未来のT&Iコンテスト」で
市民と土木エンジニアがコラボ

去る十月十一日、日本科学未来館（東京都江東区）において土木学会主催の「未来のT&Iコンテスト」及び「市民普請大賞」の最終選考会が開催された。このコンテストは土木学会の創立100周年記念事業のメインイベントとして実施されたもので、日建連の土木工事技術委員会が協力。当日は多くの来場者が会場を埋めた。

T（テクノロジ）部門では「実現したい未来の社会」、I（アイデア）部門では「自分たちの住みたい未来」について一般からアイデアを公募。最終選考会では、そのアイデアの実現方策を真剣に検討した専門技術者たちと共同でプレゼンテーションを行った。市民普請大賞は、地域を豊かにするまちづくりに取り組む団体がその成果、実績を競った。

各部門、大賞への応募総数は三三四件にのぼり、事前選考を通過した各五チームが当日の最

終選考会に臨んだ。厳正な審査の結果、I部門でチーム藤井の「ゆたかな森のおがくず道路」、T部門でチーム市川の「動いちゃうんです！ 災害に学び、災害に備える都市」、市民普請大賞では特定非営利活動法人・グランドワーク三島の「市民・NPO・行政・企業による地域協働システムの構築で『市民普請力』を育成」がそれぞれ最優秀賞に輝いた。

I部門でグランプリを獲得したチーム藤井の提案者、藤井雄也君は小学校三年生。「東京はマンションばかりで緑が少ない。もっと生き物に優しい街に住みたい」という藤井君の思いに、ゼネコンのエンジニアたちが「おがくず」を活用した道路の建設、ナノファイバーへの応用やリファイナリーの技術でアイデアをサポート。その堂々たるプレゼンテーションに会場から共感の拍手が寄せられた。

[最優秀賞]

I部門：「ゆたかな森のおがくず道路」

チーム藤井

(提案者=藤井雄也くん、東京都江東区立越中島小学校3年生)

T部門：「動いちゃうんです！

—— 災害に学び、災害に備える都市」

チーム市川

(構成員=市川拓真横浜国立大学院都市

イノベーション学府都市地域社会専攻ら5人)

[市民普請大賞]

「市民・NPO・行政・企業による
地域協働システムの構築で『市民普請力』を育成」

特定非営利活動法人・グランドワーク三島



「未来のT&Iコンテスト」I部門で最優秀賞に輝いたチーム藤井のメンバー

環境と調和した建築 技術が可能にすること



西沢立衛氏の講演の様子。スクリーンの映像は「豊島美術館」(2010年)。

一般社団法人日本建設業連合会(日建連)は、去る十月八日に「日建連建築セミナー」を東京証券会館のホールで開催した。講師には世界で活躍する建築家の西沢立衛氏をお招きし、「環境・建築・人間」というテーマでご講演いただいた。

環境と調和した建築

西沢氏は「豊島美術館」(第五回BCS賞特別賞)をはじめ、国内外で手がけた美術館や住宅、パビリオンなど一〇の近作について紹介した。それらは用途や規模に関わらず一貫して「地形や周辺環境との連続や調和をテーマに取り組んでいる」という。西沢氏が設計をはじめた九〇年代、建物の外部(「環境」と内部(「機能」)は別々の問題として扱っていたという。しかし、人がまちを歩いて建物へと辿り着き、内部に入る一連の体験は、建物が外部に開いて



セミナーの後半では日建連建築設計委員会委員長を務める河野晴彦氏(右)が加わり対談が行われた。

いるかどうかに関わらず連続している。その大きな流れに着目してから、「周辺の風景や歴史、文化などと人の行動が建物とダイナミックに応答するような建築のあり方を模索する」ようになったと述べた。

感覚的で原始的な設計

セミナーの後半では、日建連の河野晴彦建築設計委員会委員長が加わり、コンピュータやチームで創造することの可能性などについて対談が行われた。



西沢立衛氏

西沢氏は地形と一体となった緩やかな自由曲線を建物のデザインに多く取り入れている。これは二〇〇〇年以降、高度な計算能力をもつコンピュータが普及し、パソコンを使って設計する時代になったことと深く関係しているという。いまや三次曲面など複雑な立体を簡単に造形できるようになり、表現の幅が飛躍的にひろがったと述べた。思考がスムーズにかたちへと反映

され、設計行為はより感覚的で原始的なものに近づいているという。

最後にチームで設計することについて、「建築は専門分化が進んでおり、さまざまな専門家とともにプロジェクトに取り組む。これにより発想の萌芽は構造や施工など、どこからでも生まれる面白い時代になった」と述べてセミナーを締めくくった。

建設業で活躍する 女性技術者・技能者の愛称は 「けんせつ小町」に決定

(一社)日本建設業連合会(日建連)は、建設業において、土木、建築、設備、機械など多くの職種で活躍する女性技術者・技能者の愛称募集を行いました。平成二十六年九月二十二日から十月五日までの二週間にわたって募集を行ったところ、会員企業をはじめ一般の方からも多くの応募があり、応募総数は二、九四〇件ののぼりました(女性二七%、男性七二%。会員企業七一%、非会員企業二九%)。たくさんのご応募、ありがとうございました。

「けんせつ小町」は、ストレートに「建設」と、美しく聡明な女性を表現した「小町」の組合せが、建設業界の呼称としてわかりやすく、時代に左右されない愛称であること、「けんせつ」がひらがな表記で、柔らかい雰囲気と親しみやすさが表現されていること等が高く評価され、決定に至りました。

日建連は今後、この愛称を日建連の公式用語として、文書、資料等に用いるとともに、会員企業に積極的に活用していただくよう働きかけていきます。また、外部に向けて女性の活躍推進を発信する場合にも積極的に活用し、広く普及・定着を図っていく予定です。



愛称選考審査会の西岡真帆委員と中村満義日建連会長